

かけはし



国際交流ふれあいボウリング

アジアフェスタ
in 一宮



ファッション138



外国人向け防災教室



English Free Talk

Instagram



Facebook



Website



ファッション138 ボランティア体験談

いわさ みちひろ
岩佐 充大さん

ファッション138で4年ほど前からファシリテーター*として活動しています。



人前に立って話すことが苦手な私がファシリテーターとして活動する理由は、私が初めて子どもたちの前でワークショップを行った時、帰ってゆく子どもたちの眼がキラキラ輝いて見えたから！もっとたくさんの子どもたちに気づきと学びを届けたい、将来このワークショッ



▲市民向けワークショップ(大人も参加可)も実施

プを思い出して活躍してほしい、と思ってしまったからです。子どもたちに気づいたことや思ったことを口に出してもら



難しさもありますし、ワークショップ後に行うメンバー同士の反省会では改善点を指摘されまくります。それでも子どもたちの未来のために少しでも役立つように、これからもメンバーと共に頑張っています。

※ファシリテーター... ワークショップなどで参加者の意見や発言を引き出し、円滑な進行をサポートする人のこと。

2026年4月から、ファッション138は協会ボランティアグループから独立し、任意団体として活動の幅を広げます！ファッション138の活動については、右の二次元コードからご覧ください。



<https://facci138.jimdosite.com/>

English Free Talk

いちのみやしこくさいこうりゅうきょうかい 一宮市国際交流協会では、市国際交流員や参加者同士で英会話を楽しむ「English Free Talk」を開催しています。2025年度も年齢、性

べつ 国籍問わず多くの方が参加され、英語でのコミュニケーションを楽しみました。2026年度も開催予定です。ぜひご参加ください！

参加された皆様からコメントをいただきました

10月18日
(休日開催)

いい勉強になりました

毎回楽しみにしています！



久しぶりに英語が話せて良かったです！

1時間が短く感じました

12月12日
(夜間開催)

I had a fun time!!



他の国の方々もいて、いろいろな話ができました



大人の方とお話できて、優しい人たちばかりで助けられました！

がいこくじんむ こうつうあんぜんきょうしつ 外国人向け交通安全教室

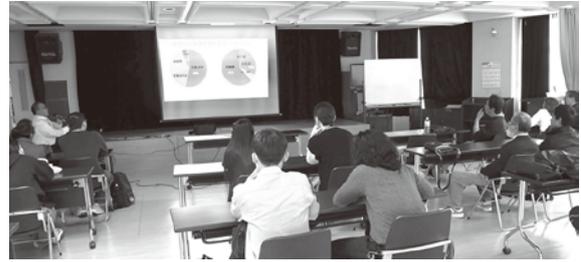
むかいやまこうみんかん だいかいぎしつ がつ にち
向山公民館 大会議室 10月26日

いちのみやししみんきょうどうか はままつ こうし
一宮市市民協働課の濱松さんが講師となり
開催され、ボランティアを含め22名が受講しま
した。今回は、2026年4月1日から導入される
「自転車への交通反則通告制度」に重点を置き
説明がありました。これは比較的軽微な交通違
反に対し「交通反則告知書(青切符)」が交付さ
れ、違反者が反則金を納付すれば刑事罰になら
ないという制度です。

こうしからは、まず愛知県の昨年の自転車事故
の多さと原因について説明がありました。自転
車を運転するときは、事故にあったときに致命
傷を負わないためにヘルメットの着用が重要だ
と力説されていました。また、自転車の交通反則



行為は65種類と、私た
ち日本人でも知らない
種類の多さに、受講者た
ちはとても驚いていま



また反則金も3千円から最高1万2千円と
高いことも驚きのひとつでした。

講師は外国人が理解しやすいように、はっき
りとした聞きやすい声で、ゆっくりとフレーズの
間隔もあけて話をされていました。また、スライ
ドやビデオでの事例説明もわかりやすかったの
で、みんな熱心に聞いていました。

今回は実技体験を伴わない座学のみでし
たが、内容がとてもわかりやすく、「これも交通違
反なのか」と初めて認識した反則行為も多かっ
たのでとても有意義だったと思います。(katsu)

がいこくじんむ ぼうさいきょうしつ 外国人向け防災教室

びさいしやうぼうしよ がつ にち
尾西消防署 1月18日

がつちゅうじゆんびさいしやうぼうしよ にほん ぼうさい まな
1月中旬、尾西消防署にて日本の防災を学ぶ
防災教室が行われました。参加者は、日本人と外
国籍(タイ、ベトナム、中国)の方とご家族。
けむり体験、消火器の使い方、AEDと心肺蘇生
の救急法を学びました。

まず、スモークハウス(けむりを充滿させたテ
ント)にて、けむり体験。けむりを吸わないよう
にハンカチが手で口を押さえ、姿勢を低くして
中へ。「中は視界がないので、左右どちらかの壁
に触りながら移動してください」との指示。体験
者さんは、「まったく前も見えないので、出口も
わからず、何かにぶつかってしまいました」と想



像以上の視界の悪さ
に驚いていました。

次に、消火器の使い
方。初めての人も多い
消火体験。「火事だー」

と周りに知らせ、熱くない所まで近寄ってから
ピンを抜き、ホースの持ち方、消火まで一連の流
れを、消防の方が1人1人丁寧に教えていました。

最後にAEDと
心肺蘇生法。AED
は日本語の音声し
が流れないので戸
惑いも見られまし
たが、救急隊の方



が人形を使いながら見本を見せ、その後1人1人
実践し、貴重な体験ができました。

心肺蘇生の講義中、突然出動要請が!! 緊迫
した空気に変わり、救急隊の方がすぐさま現場
に向かう姿は、まさに防災と救急を身近に感じ
た瞬間でした!!

(なみへい)

いちのみや アジアフェスタ in 一宮

きそがわ がつ にち がつにじゅうよっか
イオンモール木曾川ノースコート 11月23日～11月24日

今回のアジアフェスタin一宮は2026年9月19日から始まるアジア・アジアパラ競技大会のPRも兼ねて、2日間にわたり行われました。アジア各国の音楽・舞踊・文化などを紹介するとともに、大会に向けた競技の魅力など学びと感動に満ちたステージもあり、もりだくさんの催しでした。

まずはイベントの紹介です。3ブースがあり、アジアの国々の民族衣装を実際に着てみる体験コーナー。瓶の中に入った本物のアジアのスパイスの香りを嗅ぐコーナー。アジアの暮らしがわかる家庭用品や雑貨の展示コーナーがありました。



また、先に述べたようにアジア・アジアパラ競技大会を盛り上げるために2つの競技体験ブースがありました。

1つはヨーロッパで生まれた重度脳性麻痺者もしくは同程度の四肢重度機能障害者のために考案されたスポーツでアジアパラ競技大会の正式種目である「ボッチャ」の体験コー



ナーでした。私も体験しましたが、的になったボールに、より近く自分のボールを置くだけでなく、相手のボールをいかに遠くに置かせるか、いろいろな駆け引きがあって頭脳を必要とするスポーツだと感じました。

2つ目は今大会で一宮市総合体育館が会場となる競技である「バドミントン」の体験コーナーがありました。模擬のコートも用意されていて、子どもたちから経験者までバドミントンを楽しんでいました。

ステージでは中国の二胡演奏、インドネシアのバリ舞踊、韓国舞踊、インド舞踊、それに中国と韓国出身者によるそれぞれのお国の文化についての講演もありました。

アジア・アジアパラ競技大会のマスコットキャラクターの「ホノホン」と「ウズミン」といっしょに写真を撮るコーナーもあり、子どもたちの順番待ちも起こっていました。

大会のPRを兼ねた催しでしたが、買い物ついでに立ち寄っても思いのほか楽しく過ごせたとおもいます。(あんちゃん)



国際交流ふれあいボウリング

アソビックスびさい 1月18日

日本国籍の方と外国籍の方が一緒にチームを組んで楽しむ「国際交流ふれあいボウリング」。参加者は子どもから大人まで、総勢39名。タイ、ベトナム、中国、インドネシアなどさまざまな国の方々と一緒に楽しみました。

まず、受付をしてから張り紙で自分の名前とレーンの番号を確認。どんな方とチームなのかドキドキしながら靴を持ってレーンへ。

初対面で、最初はぎこちなく遠慮も見られましたが、1ゲーム目が終わり中間発表。チーム、個人での順位の発表があり、2ゲーム目では、他のチームに追いつくよう、皆の結束力が強くなり、1ゲーム目より打ち解けていきました。

うまくできず悔しがって泣いている子、ストライクを出して笑顔でハイタッチをしている様子など、チームごとに盛り上がっていました。私も参加させていただきましたが、ガターばかり…笑 皆さん、とても上手でした!!



最後に、チーム・個人と、それぞれ順位発表と併せて表彰もありました。



参加者さんからは「外国籍の方と交流できて、子どもたちにとっても良い機会になりました」や「初めは緊張したけど、とても楽しかった」など、たくさんの楽しかったという声がありました。

ボウリングは各国にもあり、違いを聞いてみたところ、日本と同じシステムの様です。そして、言葉が通じなくても国境を越えて楽しめるものだということを実感しました。(なみへい)



こくさいこうりゅういん

国際交流員 ヤング アリス

キア オラ
Kia ora. こんにちは。ニュージーランド (NZ) 出身のアリスです。一宮市に着任してから4年以上経ちました。かけはし90号に新任国際交流員のあいさつを載せていただいたことが懐かしい。その際、表紙も私の写真が使われておりましたが、なんと歴代のかけはしの中で唯一単独写真が表紙になった号です。本当に恐ろしい。



さて、今回は一宮市とNZの交流について振り返ってみたいと思います。一宮市とNZの交流は旧尾西市のときから続いています。交流のきっかけは、地域の毛織物産業がNZから羊毛(ウール)を仕入れていたことが始まりだとされています。中学生のNZへの海外派遣、NZ高校生の訪問、小学生同士の絵手紙交流など、様々な交流を行ってきました。また、2005年の愛・地球博の際にNZも一宮市のフレンドシップ相手国の一つでした。



▲NZ高校生が伝統舞踊「ハカ」を踊っている様子

NZ出身の国際交流員も交流の担い手として一宮市で活躍してきました。市内小学校への訪問やNZ文化理解セミナーを通して、一宮市民のNZへの親しみを深めました。

NZ関連の事業を行ってきた中で個人的に好

きだったのは料理セミナーです。食べるのが好き、美味しいものを追及したい!という思いももちろんありますが、食べ物というのはすごく直感的に文化を感じることができ、国際交流の方法としてもってこいです。初代NZ国際交流員のカズシさんから続いてきましたNZ料理セミナー、そろそろ私の代になって“ネタ切れ”するのかもしれないや、NZには日本であまり見かけないデザートが豊富でまだまだ皆さんと作りたいたいものがあります。やはりNZの食文化といったら、アフタヌーンティーが欠かせないですね。初代と私で考え方が一緒です。



▲カズシさんのアフタヌーンティー(左)とアリスのアフタヌーンティー(右)

始まりがあれば終わりがあります。私も一宮市の国際交流員としての最後の時間がやってきました。今まで多くの方にお世話になり、本当にありがとうございました。でも私の場合、決してお別れではありません。4月から一宮市の国際・多文化共生コーディネーターとして尽力して参りますので、引き続きよろしく願いいたします。

それでは次会う時まで。Mā te wā!

れきだい こくさいこうりゅういん
歴代ニュージーランド国際交流員

- ① 2003 - 2006 Kazushi Muir
- ② 2011 - 2014 Jackleen Ryder
- ③ 2014 - 2017 Roseanna Finkle-Vern
- ④ 2017 - 2018 Jonathon Rudd
- ⑤ 2018 - 2021 Cassandra Lotivio
- ⑥ 2021 - 2026 Alice Yang

おとなりさん

張 亜文さんを紹介しします。亜文さんは中国の吉林省の出身。日本の大学に行きたくて高校卒業後に大阪の日本語学校に入学、日本語を勉強して大阪の大学に進学しました。そして大学卒業後、関西空港で働いている時に福岡出張をして今のご主人と出会い、2年間の遠距離恋愛ののち結婚して福岡で生活を始めました。2021年にご主人の仕事の関係で一宮に来たそうです。

一宮の印象を聞くと、公園や病院も多く、交通も便利で都会だと思ったそうです。故郷の吉林省は北海道と同じぐらいの緯度でそれほど暑くないし湿度も高くないので、一宮に来て夏の蒸し暑さには驚いたとか。

現在は小学校1年生と幼稚園の子どもさんの子育て中です。中国の学校と比べると日本の学校は勉強ばかりでなく、折り紙をしたり朝顔の観察をしたりと勉強以外のいろいろな活動があって、子どもも楽しく通っていますと言っていました。中国では小学校を卒業する時にも試験があって進学する中学を決められたりする

など、大学までずっと勉強勉強で親も子もたいへんなのだそうです。

故郷のお料理についてもお聞きしてみました。家庭料理というとなんと頭が浮かぶのは「水餃子」で、春節の時だけで

なく、さまざまなお祝いの場面で、お母さんが豚肉と白菜・ニラの餃子や牛肉とタマネギの餃子など数種類作って、皆で鍋を囲むのだそうです。

現在は子育てのためお仕事はされていませんが、将来的には国際的に役にたつ仕事してみたいそうです。留学や仕事で日本に来たばかりの外国人の人に日本のルールを教えたりして、日本で暮らしやすくなるようアドバイスできたらと思っています。(日野)



iiia information

いちのみやしこくさいこうりゅうきょうかい
一宮市国際交流協会はi-ビル3階に移転します

多文化共生施策の充実のため、訪れやすい、話しやすい協会を目指して移転します。

▼ 移転先 / 尾張一宮駅前ビル(i-ビル)3階 市民活動支援センター内
(〒491-0858 一宮市栄3丁目1番2号)

▼ 移転日 / 2026年4月1日(水曜日)

▼ 営業日 / 火曜日～金曜日、第2・第4土曜日(祝休日は休業)
午前9時から午後5時まで



2026年4月から「会員制」を導入します

国際交流・多文化共生の推進にあたり、地域の国際化に対応した活動を広げていくために「会員制」を導入します(ボランティア制度とは別です)。

▼ 会費 / 個人会員:年3,000円 法人・団体会員:年20,000円

▼ 特典 / 協会事業の優待・優先参加
情報交換会(会員向け交流会)の開催 など

*詳細につきましては当協会のウェブサイトにてご確認ください。



地球あっちこっち



たの しょくぶんか PYOで楽しむイギリスの食文化

まきた わたる
榎田 渉 さん

わたしは2023年まで妻と3人の子どもとともにイギリスのロンドンに2年間赴任していました。私たちはウエストアクトンという日本人学校のあるエリアに居住していたため、日本食へのアクセスも容易でしたが、郷に入るとは郷に従えということで、なるべく現地の食材・現地のレシピで料理を作るように心がけていました。日本食は高いので、そちらの方がお財布にも優しいですね。

私たちの普段の買い物は主にネットスーパーでしたが、夏になると郊外の農場で開催されているPYO (Pick Your Own) に行き、家族で野菜や果物の収穫を楽しみました。ロンドン近郊ではGarsonsやParkside Farmなどがあります。

PYOの魅力は日本のいちご狩りなどのようにその場で食べるのではなく、収穫した分を量り売りで購入するため、必要なだけ持ち帰れる点にあります。いちごやラズベリー、ブラックベリーといったベリー類が特に充実していて、熟しておいしそうなお色鮮やかな果実を探す時間は、子どもたちにとって宝探しのような体験になりました。入場料はわずかな金額で、実質的には収穫した作物の代金



もたちにとって宝探しのような体験になりました。入場料はわずかな金額で、実質的には収穫した作物の代金

だけ。車があれば気軽にPYO農場に出かけて楽しめる、我が家にとってはコストパフォーマンスの高い夏のイベントでした。

また、気になって調べたのですが、PYOは農場側にとっても理にかなったビジネスモデルのようです。収穫作業を来場者が担うことで人件費を抑えられ、流通コストも無く、中間業者を介さないためマージンも最小限。さらに、レストランや小売店を併設することで追加の収益を生む機会があるという利点もあります。

私たちはとった野菜は肉料理の付け合わせとして、ベリー類はデザートとして、PYOで手に入れた食材からこそその素材の味を楽しみました。イギリスの家には立派なオーブンが備え付けられていることが多く、PYOで手に入れた新鮮な食材は手軽に美味しく調理できます。ネガティブに語られることも多いイギリスの食文化ですが、住んでみると良い点も多くあると感じました。



へんしゅうこうき 編集後記

著名なニュースキャスターの訃報に驚いた冬もそろそろ終わる。彼のおかげでニュース報道に興味を持ち始めた人は私の他にも多くいることだろう。報道番組を身近なものにする大仕事をされた方だった。かくいう私は定年し再就職した職場で11年目が始まる。年齢を重ねるにつれ揺れ動く職業観。職業をどう全うするかに思いをはせる。

(you都市)

発行：一宮市国際交流協会 (〒491-8501 一宮市本町2-5-6 一宮市役所本庁舎9階 観光交流課内)

- 一宮市の国際交流協会の中心となって活躍いただく親善ボランティアを随時募集しております。
- みなさんも親善ボランティアに参加しませんか？お気軽にお問い合わせください。
- *この「かけはし」も親善ボランティアにより取材・編集されています。
- ご意見・ご感想をお待ちしております。【TEL:0586-85-7076 E-mail:kokusai@city.ichinomiya.lg.jp】
- 当協会に関する情報はウェブサイトをご覧ください。【WEB:https://www.city.ichinomiya.aichi.jp/jia/】